

西根

七時雨「森と川・夢浪漫フォーラム」開催



地域づくりについて意見交換が行われました

ふるさとの魅力を語り、豊かな自然を未来へ継承しようと「森と川・夢浪漫フォーラム」(七時雨ロマンの会主催)は2月18日、西根地区市民センターで開かれました。フォーラムでは、寺田小の4年生が涼川を水質調査し、学んだことを発表しました。大更出身で東北歴史博物館の工藤雅樹館長が川の古代史について講演。田村正彦市長などが地元学を通じた地域づくりについて意見交換しました。

生き生きと心と体の健康づくり

市民一人一人に健康づくりの意識と知識を高めてもらうと市は2月10日、西根地区市民センターで健康づくり推進大会を行いました。大会では、千葉県で神経内科リハビリ病院を営む旭俊臣さんが「認知症の予防と街づくり」と題して講演しました。医師である姉妹都市の熊坂義裕宮古市長は、地方分権と地域福祉をテーマに同市の取り組みを紹介し、参加者は福祉について理解を深めました。



食生活改善推進員が地元食材で健康メニューを提案

八幡平市

健康と癒しをテーマに滞在型観光を促進

市産業振興協議会(横沢盛悦会長)は1月31日から2月2日まで、安比高原スキーセンターで温泉入浴指導員養成講習会と健康メニュー試食会を行いました。この事業は同協会が、温泉と特産品を活用し、健康と癒しをテーマにした滞在型観光の振興を図ろうと行ったものです。初日と2日目は、温泉入浴



地元特産品の素材の良さを生かした料理で、八幡平の魅力を紹介しました



健康・癒し型観光について理解を深める受講者

指導員養成講座が開催されました。この資格取得には健康増進、温泉医学、温熱生理学、入浴プログラム実習の受講が必要です。受講者は、温泉の入浴法や効果、医学との関係などを学んだほか、実技ではプールで効果的な水中運動を体験しました。3日目は、市内ホテルのシェフが腕を振るった健康メニュー試食会を開催。地産地消をテーマにホウレンソウ、ニジマス、ヤマブドウなどの特産品を使った料理が並べられ、参加者はレシピや調理法を確認しながら、素材を生かした料理に舌鼓を打ちました。

心停止した人に電気ショックを与え救命する自動体外式除細動器(AED)の普及を図ろうと日赤東支部は1月25日、市に3台を寄贈しました。市は、すでに設置済みの本庁を除き、松尾、安代両総合支所と田山支所に1台ずつ設置。市職員に操作講習を実施しました。AEDは、医学的な知識がなくても自動音声に従って操作が可能。死につながる恐れのある不整脈が起こった際の蘇生率アップに役立ちます。

日赤がAED寄贈。松尾・安代・田山に設置



消防署職員からAEDの講習を受ける市の職員

農業農村指導士4人が新たに認定される



田村市長(中央)を囲む農業農村指導士に認定された皆さん。写真左から田村さん、清水畑さん、北口さん、工藤さん

農業・農村の振興に意欲的に取り組んでいる優れた農業者を認定する岩手県農業農村指導士の認定式は1月25日、ホテル紫苑で行われ、市内から4人が認定されました。今回認定されたのは、田村道行さん(大更、清水畑京子さん(田頭)、北口ハマ子さん(土沢)と、青年農業士に工藤佳輝さん(谷地中)。これで、市内では農業農村指導士に19人、青年農業士に5人が認定され、農業振興に活躍します。

夢で風船を膨らませ希望は大空高く舞う

創立130周年を迎えた寺田小学校は2月1日、130個の風船に夢を乗せて一斉に飛ばし、節目を祝いました。

風船の発射式には、児童や父母、卒業生など130人が参加しました。色とりどりの風船には、一人一人が希望に満ちたメッセージを添付。同校3年の丹内美和さんは「保育士になれますように」と将来の夢を、1年生はアサガオ

の種をくくり付け、すくすくと成長し、大きな花が開きますようにと願いを込めました。同校のますますの発展を願い、児童会長の遠藤翔太君の掛け声で、風船を大空に向け一斉に打ち上げました。

寺田小学校は、明治9年4月29日に寺田学校として開校したのが始まりです。記録では、これまで6571人の卒業生が巣立っています。



創立130周年を記念して、風船に願いを込めて大空へ発射する寺田小学校の児童たち

安代

安代ライオンズが三ヶ田杯入賞盾を寄贈



米川大会長に盾を贈る本宮会長(写真右)

安代ライオンズクラブ(本宮武彦会長)は2月5日、三ヶ田杯第15回安代地区中学校スキー大会の入賞者に贈る盾120枚を、米川次郎同スキー大会会長に贈りました。同クラブは、青少年健全育成支援活動を行っています。大会は、平成4年のアルペリルビル五輪スキー複合団体で、三ヶ田さんが金メダルを獲得したことを記念して開催。小中学生が、偉大な先輩を目標にスキーに取り組んでいます。

博物館に春が来た。パンフラワー満開に



会場の博物館を華やかに彩ったパンフラワー

一足先に春を感じてもらおうと、市博物館は2月3日から25日まで、パンフラワー展を開催しました。パンフラワーは粘土で作った造花のことで、メキシカンフラワーとも呼ばれています。今回、狩野トミ子さん(平館)が代表を務めるグループの協力で、会場には四季を彩る花など約百点が咲き誇りました。12日と18日には、制作実演も開催。訪れた人は、本物のような花びらの質感に驚きました。

松尾

銀世界に笑顔が輝いた八幡平ゆきまつり



来場者は全長150mもある日本一の滑り台や雪像などで楽しみました(松尾会場)

雪と触れ合いながら自然豊かな八幡平エリアを楽しんでもらおうと、八幡平ゆきまつりは2月17、18の両日、八幡平温泉郷と岩手山焼走り国際交流村で行われました。ゆきまつりは今年で4回目。昨年4月に発足した八幡平市観光協会が主催し、松尾、西根両地区の冬のイベントを初めて同日に開催しました。



スノーモービルを運転し楽しむ来場者(西根会場)

イベントは「雪と親しむ」がテーマです。主会場の温泉郷には、全長150mある日本一の雪上滑り台が登場。雪像コンテストや雪上運動会も行われ、子どもたちは元気いっぱい雪とたわむれました。夜には、イルミネーションが生み出す幻想的な空間で花火大会を開催。夜空を彩る美しい光の共演に観客たちは、寒さを忘れて酔いしれました。一方、焼走り会場では、スノーモービルを使ったイベントが人気。スノーモービルにまたがり、山あり谷ありの銀世界を一気に駆け抜ける親子の歓声がこだましました。

おひなさまに孫のすこやかな成長を祈願

ひな祭りを前にした2月16日、おひなさまの押し花額を孫などに贈ろうと松尾地区公民館講座が行われました。講師は、押し花講師の免許を持つ倉野美智子さん(松尾寄木)。受講生は紙で折った内裏雛を台紙の中心に置き、色鮮やかな押し花で彩りました。仕上げに乾燥剤を敷き、ガラスをはめ込んで完成。参加者は孫の健やかな成長を願いながら、かわいらしい押し花額の出来栄に目を細めました。



おひなさまをきれいに飾る参加者たち

松尾スノーバスターズに学生助っ人参上



雪かきボランティアをする高校生たち

高齢者世帯の雪かきをする松尾スノーバスターズは2月18日、地区内で一斉活動を行いました。この日は、国立岩手山青年の家から高校生など59人が助っ人で参加。3班に分かれて、雪の多い柏台エリアへ出動しました。学生たちは、屋根から落ちた雪の多さにびっくりした様子。スコップを手にとり、次々と雪を払いのけ、ボランティア活動を通して、地域の人たちと交流を深めました。

高齢者が生き生き活動「きてけるサロン」

安代地区の高齢者などが気軽に集まり、会話やゲームなどで楽しむ「きてけるサロン」の活動が活発になっていきます。このサロンは、市社会福祉協議会安代支所が平成15年度から始めたものです。高齢者が住みなれた地域で生き生きと暮らせるようにと、小規模集落単位でサロンを構成しました。現在は、安代地区で23団体が登録しています。

年間20回ほど活動している苗代沢サロンは1月23日、「パブリックセンターみなる」で、布で編む「ぞうり作り」を開催。参加者は、ぞうりの編み方を思い出しながら、昔話に花を咲かせ、笑いの絶えない楽しい時間を過ごしました。同協議会安代支所では、安代地区全域にサロンを発足しようと、地域ボランティアの育成と協力を求めています。



きてけるサロンは、地域ボランティアが計画を立て、地域の特徴を生かしながら、自主的な活動を進める小規模な社会福祉活動団体です。高齢者が生き生きと活動する場を設け、結いの精神を大切に、安心安全な地域づくりを目指しています